

松蔭 校長室だより

2023年 5月 8日 発行

—校長から保護者の皆様へのメッセージです— 松蔭中学校・松蔭高等学校
校長 浅井 宣光

学校の最新ニュースはこちら <https://shoin-jhs.ac.jp/shoin-news/>

わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。(コリントの信徒への手紙Ⅱ 4:18)

「感じが違うと思っていました」 チャット GPT のこと

先月、校内で1回目の入試説明会を開催しました。チャット GPT に「入試説明会」「校長挨拶」「グローバル教育」と入力し、出来上がった文章を読み上げて挨拶を始めました。「実はチャット GPT で…」とネタ晴らしをしたあと、思考力や判断力、表現力の育成がこれからの学校教育の課題であり、AI をツールとして使いこなすためにも、松蔭でも取り組んでいきたいと締めくくりました。終了後、ある先生から「挨拶の冒頭が、いつもと感じが違うと思っていました」と声をかけられましたが、AI が作る文章に私自身も「何とも言えない気持ち悪さ」を感じました。自分の言葉ではない点に尽きます。

チャット GPT は、医療の現場でも活用されつつあるというニュースがありました。問診の回答によって病気を予測したり、検査方法や治療薬を選択したりするそうですが、情報の正確性や責任の所在などの問題点も指摘されていました。教育現場では、課題レポートや読書感想文に AI を利用することが現実の問題として起こっています。大学によっては「チャット GPT など AI が生成した文章、計算結果などは、本人が作成したものではないので使用を認めない」という方針を決め、使用が確認された場合には、不正行為として厳格に対処することを学生に伝達しています。一方で、適切に利用することを評価し、有効活用しようという声があります。AI の回答を参考にして病気治療の選択に一定の目星をつけたり、セカンドオピニオンとして活用したりすることが可能ですし、教員の許可のもとで授業での利用を認めている大学があります。いくつかの自治体では、職員が文章を作成したり、誤字脱字のチェックをしたりすること、また、様々なアイデア創出のきっかけ作りのためにチャット GPT を利用することが認められています。業務の効率化と行政サービスの向上の取り組みの一環だということです。ポイントは、「適切な使用法」と「使いこなす能力」にありそうです。神戸市は「職員による AI 利用に関する条例」制定を検討する方針を発表しています。AI の安全かつ適切な活用を目指しています。海外では、EU は AI で作成した文章、合成画像、音楽など全てに“Made with AI”の明示を義務化する方向で検討しているとの新聞記事を読みました。

学校でも「今、目の前にある」問題ですので私見を述べます。まずは「適切な使用法」として、一部の大学や EU の方向性と同様に、「チャット GPT 利用」の明示です。AI を一部でも利用して作成した文章や作品には、必ず「チャット GPT 利用」等と明記する学校ルールを定めるべきだと考えています。課題レポートでは、資料やデータ、他者の発言の引用などはこれを明示することが求められていますが、AI についても同様にする必要があります。

次に、「使いこなす能力」の育成です。様々な手法があると思いますが、私が考えているやり方は、成績評定や学習評価にあたり、面接や口頭試問のシステムを積極的に活用することです。イタリアで現地の高校に通う高校生と話す機会があり、様々な話題について言葉を選びながら、自分の考え方を的確に表現する姿に感銘を受けました。学校でのテストの話題になった際、日本のように筆記試験が中心でなく、「インタビューテスト」が多いと教えてくれました。インタビューテスト、すなわち口頭試問は、日本では大学入試の総合型選抜 (AO 入試) や学校推薦型選抜 (指定校推薦)、あるいは大学院入試、一部の検定試験などで導入されていますが、小学校、中学校、高校での学習評価や成績評定の場面では馴染みがありません。時間的な制約もあり、個別に実施する際のハードルが高いせいでしょう。

う。

毎年、全国の小6児童と中3生徒を対象に全国学力・学習状況調査が実施されています。今年の国語の問題には、小6、中3の両方に「あなたならどのように言うか」「あなたはどのように伝えるか」といった内容の設問がありました。思考・判断・表現力育成の観点から、作問されていることが分かります。これからの学校教育は、「私ならこのように話す」「このように書く」「この言葉で伝える」点を重視します。

先日、埼玉県公立中学校で行われたアンケートについての雑誌記事を読みました。社会科の先生が、自校生徒を対象に「社会科の学力を伸ばすために、あなたが効果的だと考える学習活動を選び順位をつけてください」と尋ねました。回答の選択肢には、「学習した内容を説明する」「問題解決や調査に取り組む」「相談や議論をする」「教科書や参考書を読む」「先生の説明を聞く」がありましたが、回答数が最も多かったのは、「学習した内容を説明する」でした。教科書を読んだり、先生の説明を聞いたりするのではなく、自ら説明することが学びのポイントであると中学生自身が自覚しているように受け止めました。「頭では分かっているけれど、言葉にできない」という生徒の発言を耳にします。学んだ内容を「自分の言葉で説明できる」状態にもっていくことが学力向上の秘訣です。口頭試問や面接では、学習した内容や提出した課題レポートについて、適切に応答する「能力」が求められますから、準備段階を含めて学習効果という観点だけでなく、生徒の将来に資するスキルになるという大きなメリットがあります。AIがそつなく自動作成した課題レポートを提出しても、口頭試問や面接の場では決して太刀打ちできないことは当然でしょう。

「こんにちは、松蔭の校長室からお届けします。最近の学校の出来事としては、新学期が始まり、新しい生徒たちが入学しました。また、各クラスでのクラス委員選挙も行われ、生徒たちが自らの意見を発信している様子が見られ・・・(以下略)。(チャット GPT 利用)

画面上に順次打ち出された、40行ほどの「松蔭 校長室だより」の文面には違和感が残りました。

同窓会の奨学制度「千と勢（ちとせ）スカラーシップ」ができました

先月、ニュージーランドの姉妹校セントピーターズ校からの訪問団が来校し、4年ぶりに対面の交流会を持ちました。聖公会系のこの学校のスクールモットーは“Structa Saxo”。英語表記では“Built On A Rock（岩の上に建てられて）”。聖書では神を「岩」にたとえる話がたびたび登場しますが、学校のホームページによると、堅く確固で慈愛に満ちた土台のうえに、生徒一人ひとりの精神と人間性が育まれることを期待するモットーだと説明がありました。

英国を代表する聖歌のひとつに「ちとせの岩よ“Rock of Ages”」（聖歌451番、古今聖歌集387番）があります。この聖歌も、永遠にわが身を守る存在である「岩＝神」を崇め力強く歌い上げています。

本校の同窓会「千と勢会」の名称は、この聖歌に由来します。「ちとせ（千歳、千年）」は長い年月を示しますが、「せ」に「勢」の文字が充てられた事情ははっきりしていません。一音一字に定められている現在のひらがなは、明治時代中頃までは、様々な変体仮名（異体仮名）も使用されていました。「せ」の音を示す「勢」も一般的でしたから、特別なことではなかったのかも知れません。いずれにせよ「千と勢」の文字面には気品を感じますし、柔らかさのなかに確かな信念が同居する佇まいです。戦後の千と勢会は、学校の北東のバス通りにある千と勢会館に置かれ、多くの卒業生にとって母校と並ぶ「心のふるさと」でした。しかし、会館老朽化と耐震強度不足による危険のため、使用を中止しました。その後、同窓会事務局が中高内に移されていましたが、今年4月より、エセルホール横のPTA室の並びの一室を同窓会室（千と勢会室）としています。また、エセルホール（食堂）は、学校と同窓会の共用箇所としています。

この度、個々の生徒活動を支援するという趣旨で「千と勢スカラーシップ」制度が発足しました。これまで生徒の個人活動については、具体的な支援の枠組みや制度はありませんでしたが、千と勢会より学校に毎年ご寄付いただいている「千と勢基金」を原資とし、下記の規程（抜粋）により運営します。卒業生の皆様からのご厚意に、紙面をお

借りして心より感謝申し上げます。

「千と勢スカラシップ」規程（抜粋）

学校法人松蔭女子学院松蔭中学校・高等学校は、同窓会「千と勢基金」からの寄付金をもって、その事業として行う奨学金制度について定める。

第2条 奨学金を支給される者は、次の資格を有しなければならない。

- (1) 本校の生徒であること。(第3条(3)(4)(5)は高等学校AAコースの生徒対象)
- (2) 個人活動または学校が指定する競技、種目において、顕著な実績を残し奨学生として認められる生徒であること。
- (3) 学業修得への意欲、学校生活における言動や態度において、他の生徒の模範として認められる生徒であること。

第3条 奨学金の額は、次のとおりとする。支給時期等は別に定める。

- (1) 中高一般特別賞 25,000円 活動成果が顕著であり、奨学生に値すると認められる中学生、高校生。
- (2) 受講料支援賞 特別指導教室等の受講料相当額を本奨学制度により補填。
- (3) A賞 100,000円 世界大会・アジア大会等への出場。全国大会ベスト4以上（予選を経たもの）。
- (4) B賞 50,000円 全国大会ベスト16以上（予選を経たもの）。
- (5) C賞 25,000円 全国大会出場（予選を経たもの）。

第4条 奨学生の採用は本校の審査委員会の決議にて決定する。

- 2 審査委員会は、校長、千と勢会会長、副校長、奨学生候補生徒の所属するコース主任又は学年主任で構成する。